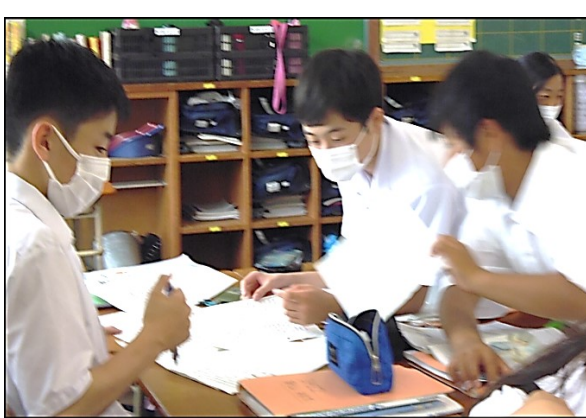
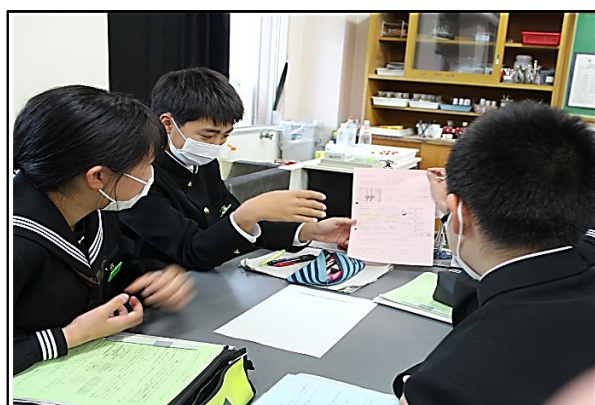


第49回 愛媛県教育研究大会 (発表大会)

学習指導案集

研究主題

豊かな心を持ち、他者と協働しながら主体的に活動する生徒の育成
～ 支え合う仲間づくりと協働学習の充実を通して ～



令和4年11月9日(水)

新居浜市立南中学校

日 程

【南中学校】

- 受 付 8 : 5 0 ~ 9 : 2 0
- 授業説明 9 : 2 0 ~ 9 : 3 0
- 公開授業 9 : 4 0 ~ 1 0 : 3 0

クラス	教科等	授業者	単元名	場所
1年1組	社会	森 怜一	世界の諸地域 (アフリカ州)	1-1 教室
2年1組	数学	栗林 音菜	一次関数	2-1 教室
3年1組	理科	山本 幸宗	運動とエネルギー	第1理科室

- 研究協議 1 0 : 4 0 ~ 1 1 : 4 0

- 移動・昼食 1 1 : 4 0 ~ 1 3 : 0 0

文化センターへの移動用バスの出発時刻

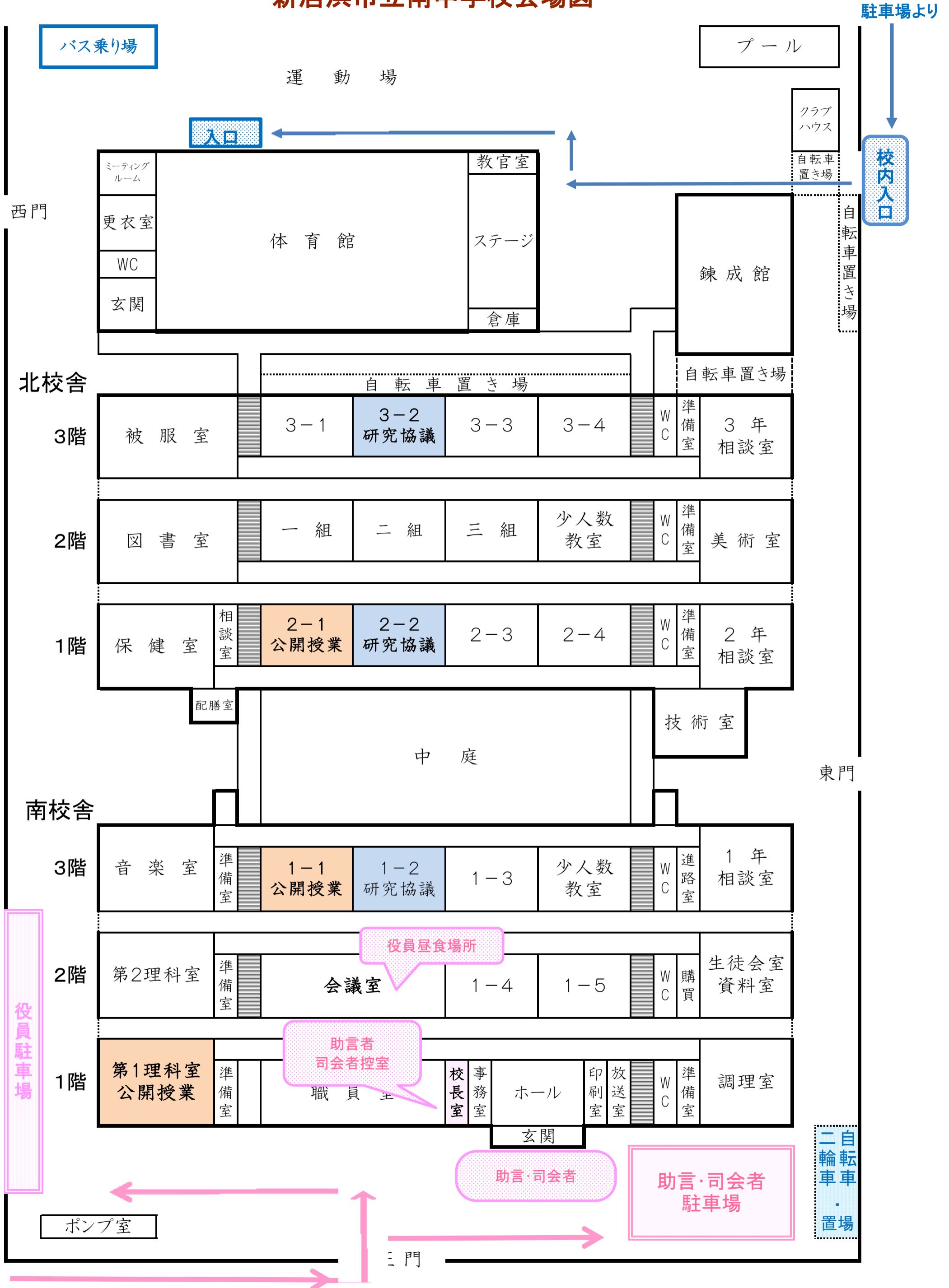
1便 12:10発

2便 12:40発

全体会【新居浜市文化センター】

- 開会式 1 3 : 0 0 ~ 1 3 : 2 0
- 研究発表・ディスカッション
・総括 1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 5 5
- 閉会式 1 5 : 5 5 ~ 1 6 : 0 0

新居浜市立南中学校会場図



令和4年度 新居浜市立南中学校 校内研修計画

新居浜市立南中学校 研修部

1 基本方針

校 訓 「新しく・たくましく・清らかに」

学校の教育目標 「自ら学び、心豊かで、たくましい生徒の育成」

2 研究主題

「豊かな心を持ち、他者と協働しながら主体的に活動する生徒の育成」
ー 支え合う仲間づくりと協働学習の充実を通して ー

3 主題設定の理由

本校は、新居浜市の中央部に位置し、生徒数472名の比較的生徒数の多い学校である。保護者や地域の人々は学校に対して協力的であり、教育熱心な校区である。

生徒は全体的に明るく活動的であり、委員会活動や学校行事に積極的に取り組んでいる。部活動も盛んで、多くの部が各種大会で好成績を残している。学習面では、各学年とも落ち着いた態度で授業に臨んでいる。しかし、学力の二極化が著しく、生徒の学習意欲や授業への取り組み方にも大きな差が生じていることが課題となっている。これまで、小集団による教え合い学習や話し合い活動を積極的に取り入れてきたものの、学力上位者が主体となって学習課題を解決するという状況は変わらず、学習の遅れがちな生徒は常に受け身の姿勢となり、話し合い活動が表面的なものに終わってしまうという問題点が生じていた。また、生徒の多くが、自分の考えを理由や根拠を付けて説明したり他者と考えを練り合ったりすることが苦手であり、話し合い活動が充実しにくいという状況も生じている。さらに、自己肯定感が低く何事にも消極的な生徒や、集団生活にうまく適応することのできない生徒も出てきており、それらの生徒は学年が進むにつれて不登校傾向に陥ることが多くなっている。

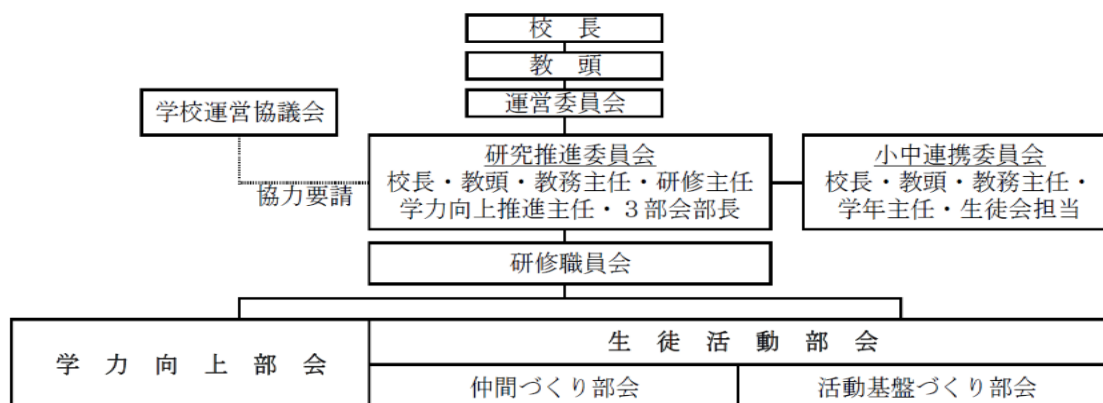
これらのことを踏まえ、本校では、「周囲に感謝し進んで奉仕する豊かな心」を土台とし、「互いを尊重し良好な人間関係を築く力」を育成することによって、「自らの課題に主体的に向き合い他者と協力し合って解決する力」を育成することが重要であると考えた。そこで、生徒一人一人の心を育て自信を持たせるとともに、支え合う仲間づくりを構築しながら協働学習を充実させることができれば、他者と協働しながら主体的に活動する生徒を育成することができるであろうと考え、本主題を設定した。

特に学習面においては、「傾聴と対話、協働を通じて、考えを練り合い、より良いものを生み出すことのできる力」を身に付けさせるため、「知識構成型ジグソー法」に重点を置いて、研究に取り組むことにした。

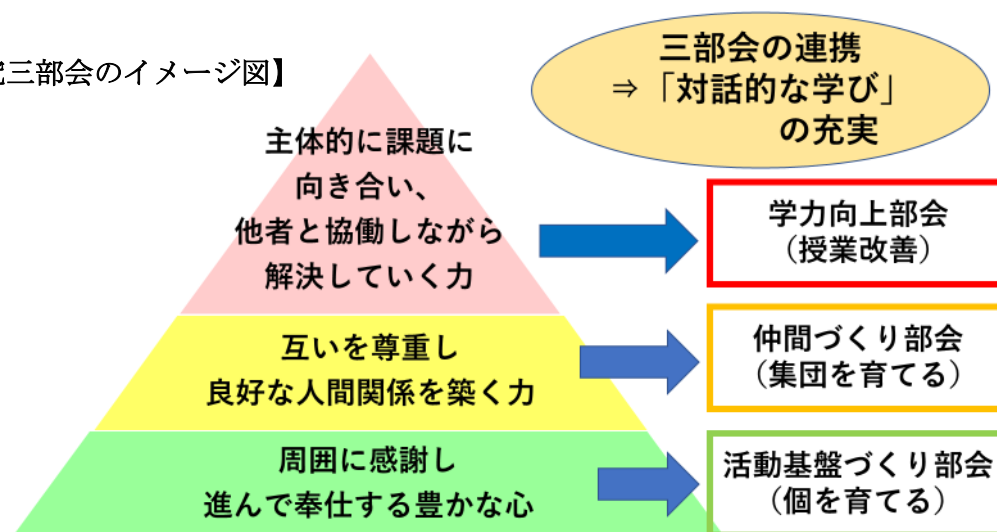
4 研究の目標

支え合う仲間づくりと協働学習の充実を通して、豊かな心を持ち他者と協働しながら主体的に活動する生徒を育成する。

5 研究推進体制



【研究三部会のイメージ図】



6 研究の仮説及び研究内容

(1) 研究の仮説

- ア 自らの思いや考えを表現し合って課題を解決する学習活動を工夫すれば、生徒の自己表現力や自己有用感が向上し、他者と協働しながら主体的に学ぶ生徒が育つであろう。(学力向上部会)
- イ 互いに協力し高め合う仲間づくりを通して、良好な人間関係を育む姿勢が身に付けば、共に学ぶことの楽しさや良さを実感し、課題解決に向けて主体的・対話的に取り組む生徒が育つであろう。(仲間づくり部会)
- ウ 規律と潤いのある学校生活の中で、感謝の気持ちと奉仕の精神を身に付けさせることができれば、学力向上や仲間づくりの基盤となる資質を持った生徒が育つであろう。(活動基盤づくり部会)

(2) 研究内容

ア 学力向上部会

- (ア) 学び合い・話し合い・発表におけるルールづくりと定着を目指す取組 (Gア)
- 話し合いの型(「南風スキル」)と適切な表現の型の提示
 - 生徒の自主的・自立的な活動による学習のムードづくりの支援

- (イ) 「対話的な学び」を実現させる学習活動の工夫
 - 自己表現力を高める言語活動の工夫（問答ゲーム） (Gエ、オ)
 - 対話を充実させる学習形態の工夫（「知識構成型ジグソー法」） (Gイ、Iエ)
- (ウ) 学習の意欲化につながる振り返り活動の工夫 (E エ、オ)
- イ 仲間づくり部会
 - (ア) 人権意識の向上とより良い人間関係づくりの工夫 (Gカ)
 - 「絆アンケート」「心をひらく日」の実施と活用
 - 個性や良さを認め合う取組（生徒会人権委員会を中心に）
 - (イ) 居心地の良い学級集団づくりを目指す取組 (Hウ)
 - Q-Uの分析を生かした学級活動の工夫
 - (ウ) 互いの意見を交換し合い、高め合う話し合い活動の工夫 (Gエ、Iエ)
- ウ 活動基盤づくり部会
 - (ア) 自他を大切にする生徒の育成 (Eイ、Gカ)
 - 「時を守り、場を清め、礼を正す」取組
 - (イ) 美しく潤いのある学習環境づくりの推進 (Gカ)
 - 挨拶運動や朝清掃の活性化
 - 「花いっぱい運動」やボランティア活動に積極的に取り組む生徒の育成

これらの研究内容については、愛媛県教育研究協議会の「授業改善の視点カード」を参考に各研究部会で決定した。各研究部会から提案された研究内容について全教職員で共通理解を図り、部会相互の連携を密にしながらいちチーム南中として実践研究を行ってきた。

「対話的な学び」 G 子ども同士の考えを広げる対話

授業改善の視点
対話をする目的と相手を意識させる。

具体的な方策

- ア 話し方・聞き方（ルール・マニュアル）の工夫
- イ ジグソー法など多様な学習形態
- ウ ラーニングピラミッドの活用（対話の目的の意識化）
- エ 立場と根拠・理由を明確にした発表
- オ 語彙力を高める工夫
- カ 支持的風土の確立

「対話的な学び」 H 子どもと教師の対話

授業改善の視点
子どもが対話しているとき、教師の支援を工夫する。

具体的な方策

- ア 教師支援の工夫
- イ 教師の言葉掛けの工夫
- ウ 意図を明確にした支援の工夫

「対話的な学び」 I 子ども同士の考えを深める対話

授業改善の視点
形態を工夫し、個人、ペア、グループ、全体学習とすすめ、自分の考えを深めさせる。

具体的な方策

- ア 学習形態の計画的な活用（個人→ペア→グループ→全体）
- イ 教師の立ち位置、目線、表情
- ウ 対話中の教師の支援の仕方（意図を持った支援）の工夫
- エ 他者の発言をもとにした自分の意見の構築
- オ ディベートの活用

「主体的な学び」 E 振り返って自覚

授業改善の視点
学習したことを生きてはたらくようになるための振り返りをさせる。

具体的な方策

- ア 自分の考え方と生き方を関連付ける工夫
- イ 実生活と結びつける工夫
- ウ 社会参画につなげる工夫
- エ 自分の成長を自覚させる工夫
- オ 自己評価の方法の工夫

7 公開授業について（「知識構成型ジグソー法」による授業）

(1) 本時における「知識構成型ジグソー法」のねらい

- ア 対話と傾聴を通して、生徒一人一人が学びを深める。
- イ グループ内の学びに、自分の情報が必要不可欠であることを自覚させ、生徒全員に発言の機会を与えることで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- ウ 他者と考えを練り合うことで、自らの考えが深まったことを実感させ、協力し合うことの素晴らしさを体験させる。

(2) 「知識構成型ジグソー法」の流れ

本時は、組合せ型（本時の課題を解決するために必要となる複数の考えを各エキスパート班が担当し、それらを組み合わせることで課題を解決する方法）を用いて授業を行う。

① 個人の思考

- ・教師は、一人では十分な答えが出ない課題を設定する。
- ・本時の課題に対し、生徒は一人で思いつく答えを書いておく。
⇒生徒全員に本時の課題を意識させる。

② エキスパート活動

- ・教師は、課題を解決するために必要な資料A・B・C（異なる視点から答えに近づく部品）を準備する。
- ・A・B・Cの3つのグループに分かれて、それぞれの資料の内容を整理し、自分の言葉で説明できるようにする。（次のジグソー活動に向けて、「自分には言いたいことがある」という自覚が高まる。）

③ ジグソー活動

- ・グループを組み換え、ジグソー班を作る。（それぞれのジグソー班には、各エキスパートのメンバーが一人ずつ入るようにする。）
- ・各エキスパート活動で話し合った考えを持ち寄り、お互いに説明し合う。
- ・「答えの部品を知っているのは自分だけ」「友達の部品と組み合わせることで課題が解決できる」という状況になるため、生徒の「伝えたい」「聞きたい」という気持ちが高まり、コミュニケーションが活性化する。

④ クロストーク

- ・ジグソー活動で作った考えを教室全体で共有し練り合う。この時、各ジグソー班がその考えに至るまでの経緯や根拠を必ず説明することとする。
- ・他のジグソー班の考え方や表現に対し、質問したり付け足したりしながら、理解を深めていく。その中で、一人一人が自分なりのまとめ方を吟味する。
- ・十分な課題解決に至らなかったジグソー班も、他のジグソー班の説明を聞いて、学ぶことができる。

⑤ 個人の思考

- ・もう一度、授業の最初と同じように、本時の課題に対する答えを自分の言葉でまとめる。
- ・自分の言葉で表現してみることで、何が分かったか、まだはつきりしないことは何か、何をもっと深めたいかを自覚し、次の学びへと繋げることができる。
- ・自分の最初の答えと最後の答えを比べてその変容を知り、友達と協働して学習を進めることで自らの考えが深まったことを実感することができる。

【参考資料：ICTを活用したアクティブラーニング（白水始）】